

介護福祉

| CASE.02 | リハビリセンターあゆみ
介護福祉領域での
農作業(園芸)の活用例



人と人をつなぐ農作業

聞き手(以下:聞)「介護(訪問リハビリ)現場での農作業や園芸の活用例について教えてください」
リハビリセンターあゆみ(以下:あ)「脊柱管狭窄症という病気で歩みにくい高齢者の方がいらっしやいました。その方はこれまで農作業が生きがいであったため、その農作業をできるだけ長く続けることを支援しました。訪問リハビリでは、農作業現場での状況や課題を家族や本人と共有できることができました。畑に行くまでの悪路をどのように歩くのか、転びやすい場所はどこか、などのリスク管理を本人や家族と一緒に考えることで、安心して作業に取り組んでもらえるようになりました。」
聞:「通所の方や施設利用者の方については

どうですか?」
あ:「“グッド種(goodだね)”プロジェクトを最近



始めました。ハンコを押すような繰り返す動作を続けている認知症の利用者がいたのですが、その方の動作を何か意味づけできないか?という思いから始まったプロジェクトです。“グッド種”の判子を作り、袋に押しってもらう。その袋の中に花の種を入れ、その袋を他の通所利用者に持って帰ってもらうようにしています。その種は、各利用者が自分で植えたり、お孫さんと一緒に植えたり。その様子を写真に撮っていただき、持ってきてもらうようにもしています。“グッド種”が人と人を繋ぐツールとなり、多くの利用者がこ

のプロジェクトに賛同してくれています。」
聞:「面白いですね。どのようにしてこんなアイデアが出てきたのですか?」
あ:「作業療法士がアイデアを出しました。作業療法士は、患者さんの生活の中での役割や具体的な課題の改善を得意とするので、その方の生活が潤う役割や活動を常に考えているんです。介護福祉領域は医療よりも、より患者さんの地域生活に近いので、このような支援をすることが大切なことだと実感しています。そして、農作業や園芸は多くの利用者が慣れ親しんだ作業なので興味や関心が高く、今後もっと事業を拡大していきたいと思っています。農作業を高齢者や障害のある方と一緒にワークショップ的にやってみたり、夢は膨らむばかりです!」



リハビリセンターあゆみでの取り組み

- 具体的な農作業…畑作業・グッド種プロジェクト
- 特徴(リハの目的)…人と人を繋げる交流の場づくり
- 実施時期や頻度…患者さんや植物に合わせて随時実施
- 課題…単一施設だけで農作業を行うには限界がある

リハビリセンターあゆみ

[滋賀県東近江市新宮町558 / TEL:0748-42-3355]

利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、必要な医療・看護・介護・リハビリテーションを多職種協働により提供し、早期の在宅復帰や在宅生活の継続を支援。地域に開かれた施設を目指して、地域住民や保健・医療・福祉・教育関係者と積極的に交流している。

地域

| CASE.03 | あいとうふくしモール
地域の中での農作業(園芸)の活用例



地域課題を支える農作業

聞き手(以下:聞)「あいとう福祉モールと農作業の関わりについて教えてください。」
あいとうふくしモール(以下:あ)「あいとうふくしモールは、老若男女、障害の有無を問わず、共に共有し解決していこうという姿勢で、様々な地域課題に取り組んでいます。その中の一つの手段として農作業があるという捉え方をしています。」



聞:「あいとうふくしモールでの農作業や園芸の活用例について教えてください。」
あ:「もともと地域の中に、ひきこもり状態のような孤立している方がおり、そのような方たちの

ような形をとって、作ったおにぎりは市役所の売店などで販売しています。」
聞:「あいとうふくしモールの施設運営にあたっての課題を教えてください。」

あ:「あいとうふくしモールでは、地域で孤立しがちなひきこもりやニート状態にある方たちが活動できる場づくりを行っています。中には障害を抱えていたり障害を疑われる方も多くいます。利用者一人一人に必要な関わりが十分に行き渡らないのは、支援者としてやるべきことが多いから、ということももちろんありますが、それ以上にひきこもり状態、地域の中で孤立している方への支援が制度として整っていないので、十分に行き渡らないのだと思っています。制度にのれず孤立している方への支援は、支援する側も孤立しがちになります。そういう点で、リハビリの方に気軽に相談できる連携システムがあれば嬉しいと思っています。」



多くは働くことに自信を失っていて、なかなか社会への一歩が踏み出せない状況がありました。そんな中、自分のペースで緩やかに体験的に働ける“中間的就労の場”として農場を始めました。それは今も継続して続けている活動で、そこで収穫された野菜はあいとうふくしモール内のファームキッチン野菜花や、田園カフェこもぎに出荷しています。また、農業から発展して2017年から地元のお米を使用したおにぎりの販売も始めています。それもまた農業と同じように地域で孤立しがちな方が参加でき

あいとうふくしモールでの取り組み

- 具体的な農作業…畑作業・おにぎり作り
- 特徴(リハの目的)…利用者支援の一つとして
- 実施時期や頻度…利用者さんや植物に合わせて随時実施
- 課題…利用者さんの作業能力や運動・姿勢の問題について十分な検討ができていない

あいとうふくしモール

[滋賀県東近江市小倉町1975-2 / TEL:0749-46-2170]

障害があっても、認知症があっても、どのような症状になっても安心して暮らせる拠点づくりに取り組み。知的障害者の方々が働く「田園カフェ」、介護を必要とする方々と家族を応援する「結の家」、福祉支援型農家レストラン」を運営し、地域の広範囲なニーズに対応している。